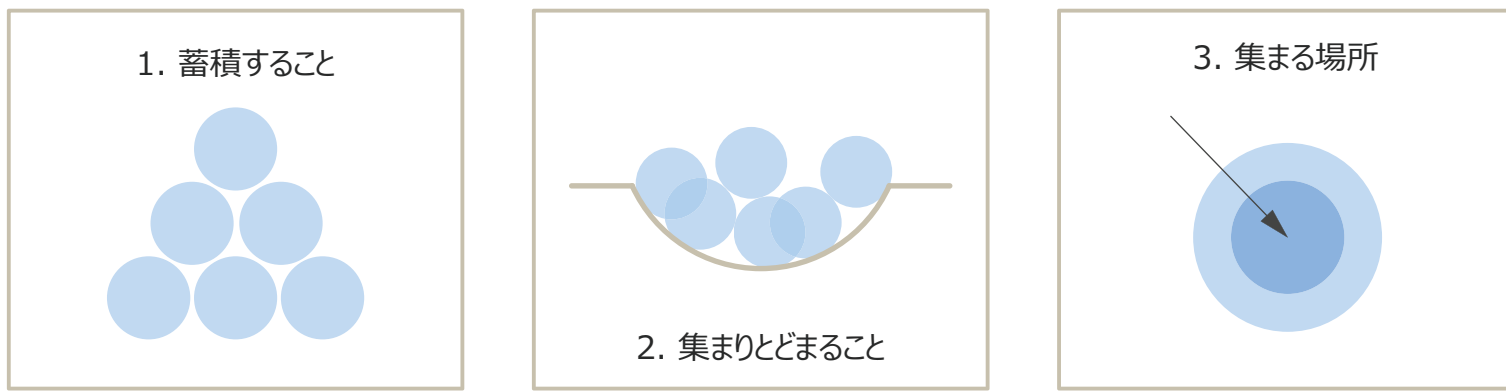


光だまりを考える

照明設計の手法のひとつとして用いられる“光だまり”。

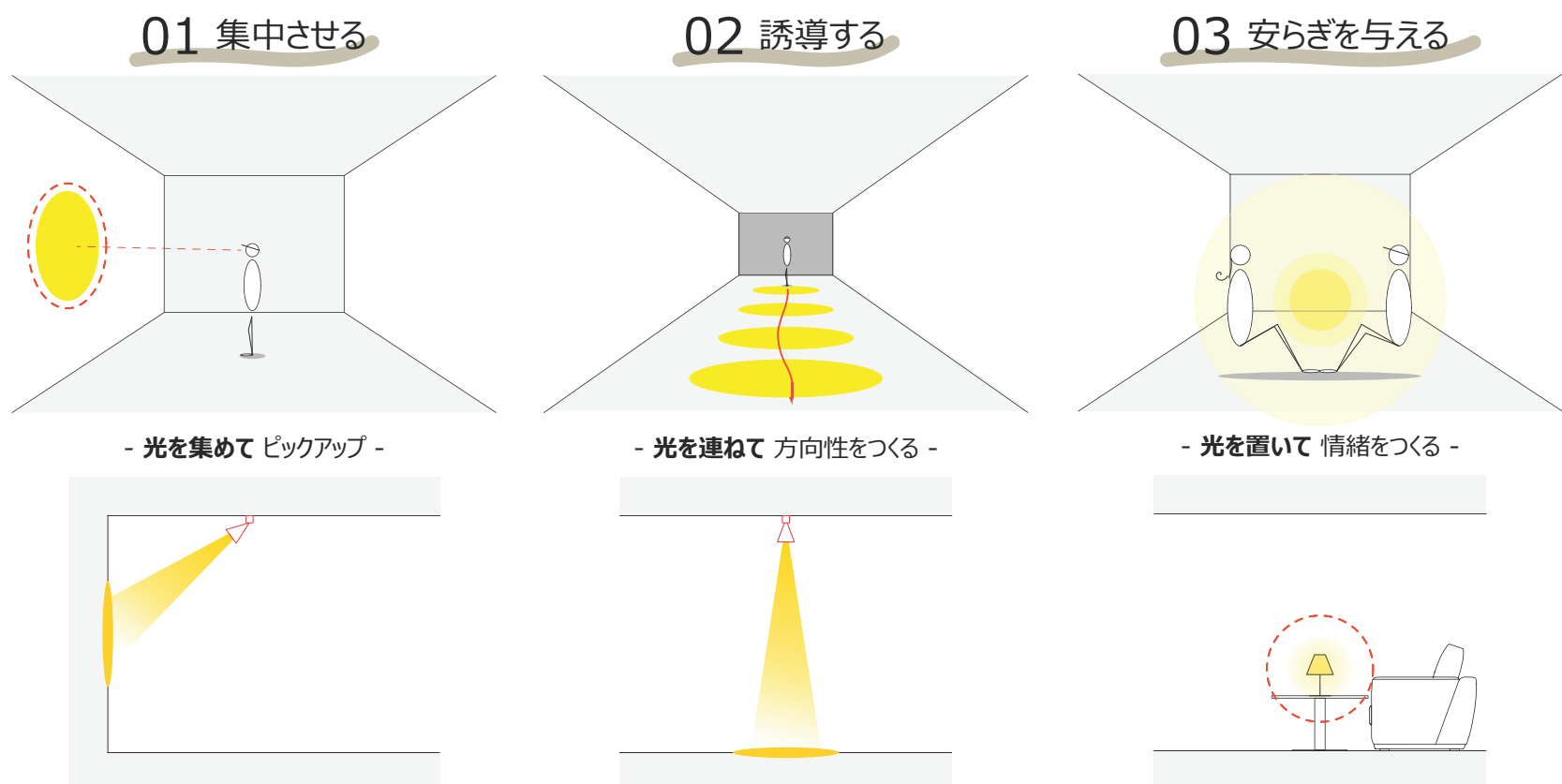
今回はこの光だまりに焦点を当て、手法を取り入れる「意味」や「目的」を再考し、その効果について、「人」の観点から考察をしていきます。

そもそも【溜まり】とは？



光だまり = 光が溜まることで生じる周囲との照度差によって、陰影が生まれる状態

光だまり がもたらす効果

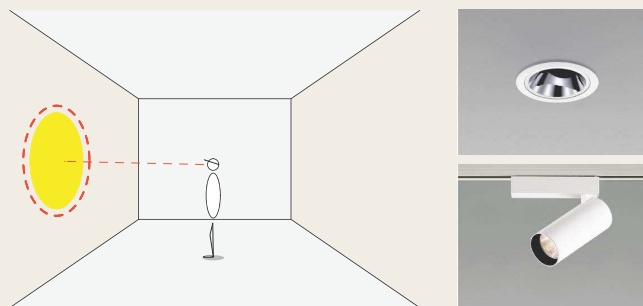




01 集中させる

- 光を集めてピックアップ -

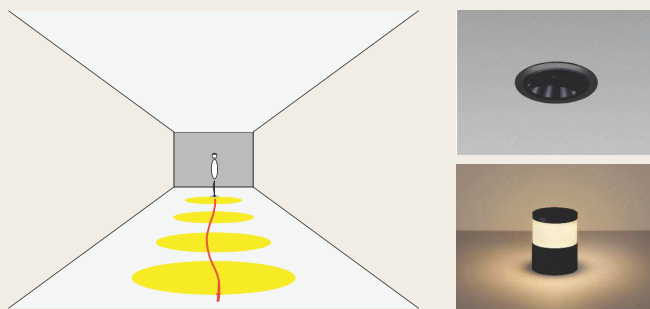
光を集め、周囲との照度差をつけることで、ピックアップさせたい箇所に人の視線を集めることができます。
 ユニバーサルダウンライトやスポットライトを使い、空間や対象に応じた最適な照射方法を検討します。



02 誘導をする

- 光を連ねて 方向性をつくる -

光を連ねることで、空間に対して方向性をつくれます。
 共用通路などの歩行空間において、人の動線を計画するために最も効果的な照明設計手法となります。
 床面に対しての光の計画だけでなく、鉛直面に対して発光感のあるブラケットライトなどを連ねる手法もあります。





布製のペンダントライトを
メインのテーブル上部に設定
柔らかい情緒ある空間をつくる



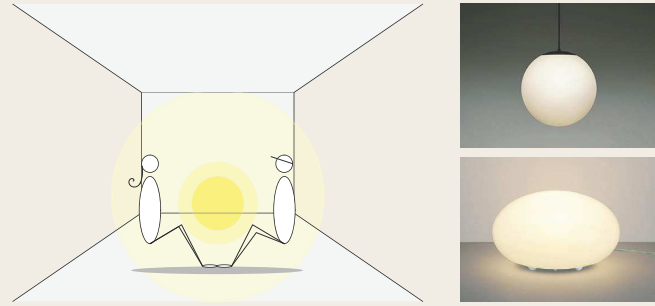
空間における光の重心を下げて
発光感のあるスタンドライトを置く
居心地の良い憩いの場所をつくる

03 安らぎを与える

- 光を置いて 情緒をつくる -

重心の低い光には安らぎを与える効果があります。適所に光を置くことで、炎や月灯りが与えるリラックス効果を再現することが可能です。

天井から空間全体を煌々と照らすのではなく、テーブル上など人の目線に近い位置に柔らかい光を置くことで、焚火を囲むような、居心地が良く長く過ごせる場所を生み出します。



部屋の中心のダイニングテーブルに
柔らかい光のペンダントライトを置き
人の集まる団欒の場所をつくる

光に実体はありません。しかし、この"光だまり"を適した場所につくることで、人や心を動かすことが出来ると考えています。
私達LCRは、人の観点に立ち、光の意味を問い続け、人のための光環境を模索し計画していきます。